

資料1 決算の概況

1. 決算の概要

令和6年度は収益合計4,016,538千円に対し、費用合計4,000,191千円となり、16,347千円の純利益が生じました。令和6年度末の未処分利益剰余金は2,774,348千円まで増加していますが、令和5年度と比較すると、純利益額は22,885千円減少しています。純利益額減少の主な原因は、委託料や流域下水道維持管理費の増加です。

資本的支出は、建設改良費582,520千円、企業債償還金2,121,350千円の合計2,703,870千円となりました。また、翌年度繰越額に係る財源に充当する額を除いた資本的収入は、1,264,911千円となりました。

2. 人口及び戸数

令和6年度末の水洗化人口は224,454人で前年度比336人の減少となっているのに対し、水洗化世帯数は105,613戸で前年度比297戸の増加となっています。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向が続いています。

	水洗化人口(人)	前年度比(人)	水洗化世帯数(戸)	前年度比(戸)
令和2年度	228,759	△591	104,021	713
令和3年度	227,864	△895	104,468	447
令和4年度	226,429	△1,435	104,958	490
令和5年度	224,790	△1,639	105,316	358
令和6年度	224,454	△336	105,613	297

3. 水量

令和6年度末の有収水量は22,595,383^mで前年度比79,743^mの減少となっています。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の流行による手洗いの増加等により有収水量は増加しましたが、令和3年度から4年連続で減少しています。

	総処理水量(^m)	前年度比(^m)	有収水量(^m)	前年度比(^m)	有収率
令和2年度	29,411,516	2,690,919	23,730,936	547,796	80.7%
令和3年度	30,159,244	747,728	23,444,797	△286,139	77.7%
令和4年度	27,102,261	△3,056,983	22,965,897	△478,900	84.7%
令和5年度	26,634,638	△467,623	22,675,126	△290,771	85.1%
令和6年度	26,532,079	△102,559	22,595,383	△79,743	85.2%

4. 企業債

毎年度、多額の償還を実施していることから、企業債残高は減少傾向にあります。

(千円)

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
令和2年度	20,323,647	845,800	2,520,006	18,649,441
令和3年度	18,649,441	1,138,550	2,403,462	17,384,529
令和4年度	17,384,529	1,088,750	2,305,400	16,167,879
令和5年度	16,167,879	563,800	1,783,073	14,948,606
令和6年度	14,948,606	1,140,300	2,121,350	13,967,556

5. 決算の詳細

(1) 収益的収入及び支出（損益計算書/税抜）

(千円)

区分	令和6年度	令和5年度	増減	前年度比(%)	備考	
収入	1 営業収益	2,860,780	2,839,988	20,792	100.7	※1
	(下水道使用料)	(2,189,857)	(2,195,892)	(Δ 6,035)	(99.7)	
	(雨水処理負担金)	(661,756)	(636,478)	(25,278)	(104.0)	
	(他会計負担金)	(7,481)	(7,112)	(369)	(105.2)	
	(その他営業収益)	(1,686)	(506)	(1,180)	(333.2)	
	2 営業外収益	1,146,670	1,169,828	Δ 23,158	98.0	
	(受取利息)	(0)	(3)	(Δ 3)	(皆減)	
	(国庫補助金)	(145)	(224)	(Δ 79)	(64.7)	
	(他会計負担金)	(51,025)	(54,622)	(Δ 3,597)	(93.4)	
	(他会計補助金)	(392,474)	(399,593)	(Δ 7,119)	(98.2)	
	(長期前受金戻入)	(697,813)	(705,336)	(Δ 7,523)	(98.9)	
	(その他営業外収益)	(5,213)	(10,050)	(Δ 4,837)	(51.9)	
	3 特別利益	9,088	8,948	140	101.6	
(退職給付引当金戻入益)	(6,817)	(3,021)	(3,796)	(225.7)		
(過年度損益修正益ほか)	(2,271)	(5,927)	(Δ 3,656)	(38.3)		
計	4,016,538	4,018,764	Δ 2,226	99.9		
支出	1 営業費用	3,772,628	3,716,232	56,396	101.5	※2
	(人件費)	(148,249)	(139,776)	(8,473)	(106.1)	
	(修繕費)	(200,249)	(201,570)	(Δ 1,321)	(99.3)	
	(委託料)	(152,597)	(124,764)	(27,833)	(122.3)	
	(負担金)	(163,352)	(155,433)	(7,919)	(105.1)	
	(流域下水道維持管理費)	(930,863)	(911,707)	(19,156)	(102.1)	
	(減価償却費)	(2,131,675)	(2,139,071)	(Δ 7,396)	(99.7)	
	(その他営業費用)	(45,643)	(43,911)	(1,732)	(103.9)	
	2 営業外費用	226,547	261,083	Δ 34,536	86.8	※3
	(支払利息)	(184,749)	(212,158)	(Δ 27,409)	(87.1)	
	(その他営業外費用)	(41,798)	(48,925)	(Δ 7,127)	(85.4)	
	3 特別損失	1,016	2,217	Δ 1,201	45.8	
	(過年度損益修正損ほか)	(1,016)	(2,217)	(Δ 1,201)	(45.8)	
計	4,000,191	3,979,532	20,659	100.5		
当年度純利益	16,347	39,232	Δ 22,885	-		

繰越未処分利益剰余金	2,758,001	2,718,769	
未処分利益剰余金	2,774,348	2,758,001	
利益処分額(案)	0	0	

※1 (増額の理由) 調整池維持管理費など雨水事業の維持管理費の増加 24,248千円。

※2 (増額の理由) 調整池維持管理費 9,909千円増加、事業認可変更等業務委託 8,320千円増加。

※3 (減額の理由) 企業債残高が減少しているため。

(2) 資本的収入及び支出(税込)

(千円)

区分		令和6年度	令和5年度	増減	前年度比(%)	備考
収 入	1 企業債	1,140,300	563,800	576,500	202.3	
	(公共下水道企業債)	(357,800)	(509,700)	(Δ 151,900)	(70.2)	
	(流域下水道企業債)	(95,100)	(54,100)	(41,000)	(175.8)	
	(資本費平準化債)	(687,400)	(0)	(687,400)	(皆増)	※4
	2 国庫補助金	30,075	54,669	Δ 24,594	55.0	
	3 他会計負担金	100,237	138,048	Δ 37,811	72.6	
	4 工事負担金	3,174	3,981	Δ 807	79.7	
	5 水洗便所改造資金回収金	100	120	Δ 20	83.3	
	6 固定資産売却代金	0	20,857	Δ 20,857	皆減	
	計	1,273,886	781,475	492,411	163.0	
翌年度繰越額に係る財源充当額		8,975	0	8,975	皆増	
支 出	1 建設改良費	582,520	861,221	Δ 278,701	67.6)	
	(公共下水道整備費)	(460,227)	(705,769)	(Δ 245,542)	(65.2)	※5
	(流域下水道整備費)	(113,001)	(109,392)	(3,609)	(103.3)	
	(受益者負担金事務経費)	(8,962)	(8,616)	(346)	(104.0)	
	(固定資産購入費)	(330)	(37,444)	(Δ 37,114)	(0.9)	
	2 企業債償還金	2,121,350	1,783,073	338,277	119.0)	
	(公共下水道企業債償還金)	(1,161,046)	(1,245,328)	(Δ 84,282)	(93.2)	
	(流域下水道企業債償還金)	(144,443)	(147,531)	(Δ 3,088)	(97.9)	
	(資本費平準化債償還金)	(815,861)	(390,214)	(425,647)	(209.1)	※6
	計	2,703,870	2,644,294	59,576	102.3	
資本的収支不足額		1,438,959	1,862,819	Δ423,860	77.2	
補 填 財 源	損益勘定留保資金	1,392,272	1,791,522			
	消費税資本的収支調整額	46,687	71,297			
	当年度同意債の未借入分	0	0			

※4 (令和6年度の内容) 借換による発行 425,000千円、新規発行 262,400千円

※5 (令和6年度の内容) 雨水事業

浸水対策事業	81,420千円	など
汚水事業		
管路等更新事業	169,918千円	
重要な汚水幹線の更新事業	88,494千円	
未水洗化区域施設整備事業	32,663千円	など

※6 (増額の理由) 借換による償還 425,000千円

6. 主要施策（雨水事業）

（1）浸水に対する取組

① 浸水対策事業 81,420千円（税込）

近年の想定を超えた大雨に対応するため、向月町地区や星の荘地区の浸水対策として雨水排除能力の強化に取り組んでいます。また、下水道事業区域における内水ハザードマップの策定しました。

財源（千円）	
企業債	67,700
国庫補助金	3,410
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	10,310

場所	内容
星の荘	雨水管布設工事（バイパス管） FRPφ800mm L=68m
向月町	浸水対策詳細設計業務委託
市内一円	内水ハザードマップの策定 A=2,669ha

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



② 調整池維持管理事業 10,887千円（税込）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図っています。すみれが丘1丁目調整池の調整池内部の除草や伐木を行いました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	10,887
工事負担金	0
自己財源	0

場所	内容
すみれが丘1丁目	除草工 3,400㎡ 伐木工 600本

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



（2）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業 ※48,950千円（税込）

昭和50年の運用開始から約50年以上が経過し、老朽化が進んでいます。耐震化・耐水化を図りながら、老朽化した施設の改築更新を行うための実施設計を行っています。

財源（千円）	
企業債	※24,475
国庫補助金	※24,400
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	※75

場所	内容
武庫川町	武庫川ポンプ場実施設計業務

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



※令和7年度へ繰越したため契約金額を記載しています。

7. 主要施策（汚水事業）

（1）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業 169,918千円（税込）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を実施し、その結果を踏まえて更新を行っています。中山桜台2丁目において、1,350mの改築工事を実施しました。

財源（千円）	
企業債	143,500
国庫補助金	17,690
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	8,728

場所	内容
中山桜台2丁目 外	管更生工事 L=1350m 既設コンクリート管

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（2）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業 88,494千円（税込）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路を更新しています。中筋7丁目地内にある中筋汚水幹線の耐震化工事を実施しました。

財源（千円）	
企業債	84,000
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	4,494

場所	内容
中筋7丁目	管更生工事 L=105m 既設コンクリート管及びボックスカルバート

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業 32,663千円（税込）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組んでいます。今年度は、安倉西のマンホールポンプ設置や中山寺地区などに污水管を新設しました。

財源（千円）	
企業債	31,000
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	1,663

場所	内容
安倉西	マンホールポンプ設置 N=1基
中山寺1丁目	Φ200污水管布設 L=29m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



8. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

損傷した場合に使用者への影響が大きい汚水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。

令和6年度は中筋汚水幹線（L = 105.0m）の耐震化に取り組みました。宝塚汚水幹線については令和6年度と令和7年度に工事を分割しましたが、令和6年度分の工事に時間を要し繰越しとなり、目標値を17ポイント下回りました。なお、最後の路線である宝塚汚水幹線についての詳細設計は完了しており、令和7年度には目標値の100%を達成する予定です。

（管路延長 L=6,900m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
目標値 (%)	47.4	57.9	68.4	79.0	89.5
実績値 (%)	40.7	56.9	64.1	71.0	72.5

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施しています。令和5年度からの繰越しである中山桜台汚水管線の管路改築が完了しましたが、令和6年度の改築工事が繰越しとなり、目標値を1.2ポイント下回りました。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L=528,700m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
目標値 (%)	20.5	21.4	22.4	23.3	24.2
実績値 (%)	20.6	21.2	21.4	22.6	23.0

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

9. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。令和6年度は100%を超えていますが、徐々に低下しています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
経常収支比率 (%)	106.1	99.6	102.2	100.8	100.2

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和6年度は純利益を達成できましたが、年々純利益の額は減少しています。なお、令和3年度の純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。令和4年度以降、他会計補助金は「汚水に係る資本費の30%」を受け取っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
当年度純利益 (千円)	239,675	0	119,829	39,232	16,347
未処分利益剰余金 (千円)	2,598,940	2,598,940	2,718,769	2,758,001	2,774,348

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和6年度に新たな借入はありません。令和7年度以降、企業債償還元金の減少により、少しずつ返済できる見込みです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
借入金残高 (千円)	670,000	970,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000

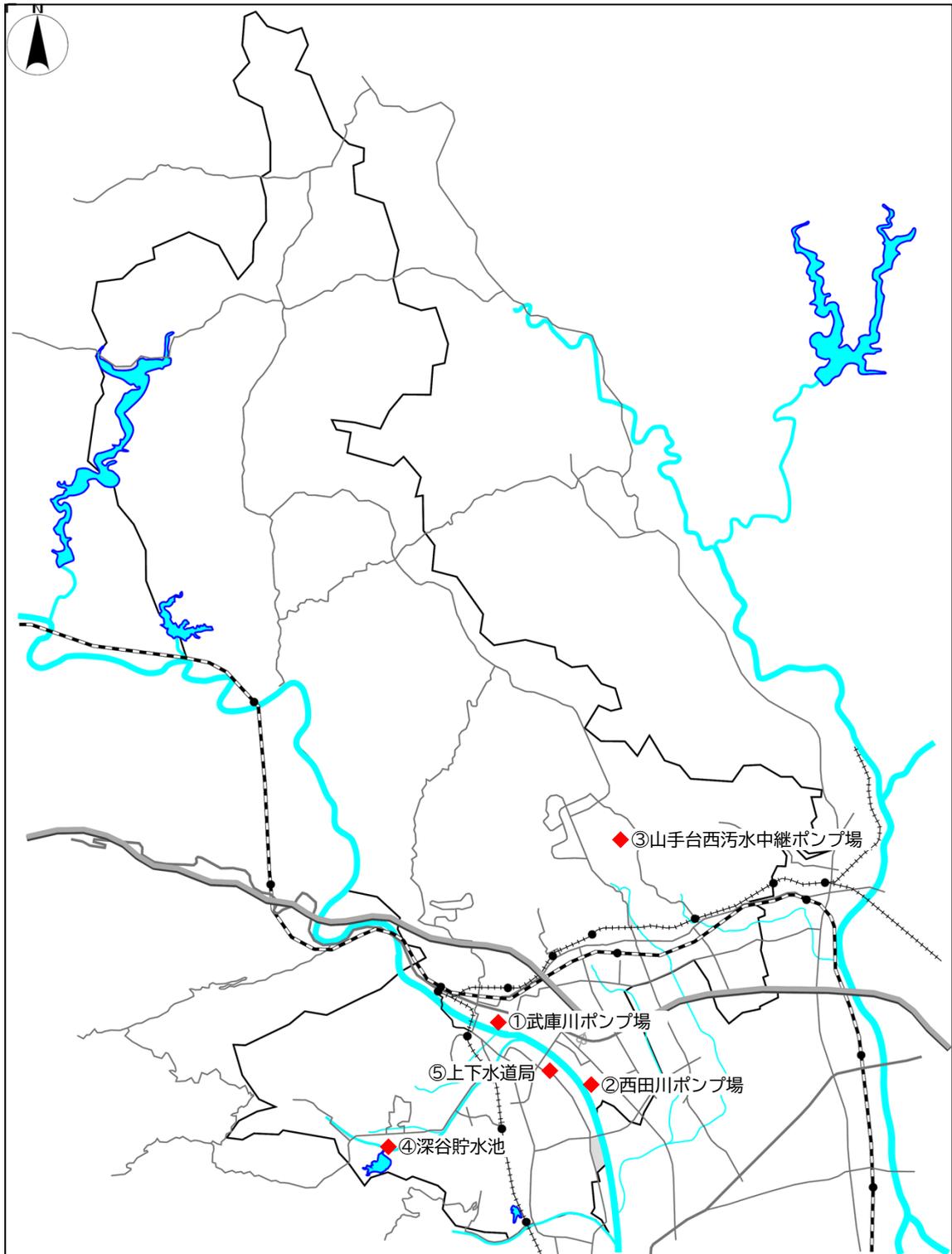
(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1m³あたりの平均収益、汚水処理原価は1m³の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
使用料単価 (円)	87.1	96.6	91.8	96.8	96.9
汚水処理原価 (円)	108.4	112.3	114.4	116.1	117.0
差引 (円)	△21.3	△15.7	△22.6	△19.3	△20.1

10. 主な下水道施設の一覧と職員の配置状況

(1) 下水道施設位置図



(2) 職員の配置状況

令和7年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	武庫川ポンプ場	武庫川町6番1号	0人	雨水ポンプ場
②	西田川ポンプ場	安倉西2丁目3番15号	0人	雨水ポンプ場
③	山手台西汚水中継ポンプ場	山手台西3丁目7番1011	0人	汚水ポンプ場
④	深谷貯水池	蔵人字深谷1390番地2	0人	
⑤	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者 1人 (0人) 上下水道局長 1人 (0人) 経営管理部長 1人 (0人) 施設部長 1人 (0人) 総務課 8人 (3人) 経営企画課 7人 (1人) 浄水課 8人 (0人) 工務課 24人 (0人) 給排水設備課 16人 (5人) 下水道課 13人 (13人)	

()内は、うち下水道事業会計職員 合計22名